

2015



vol.6

紀の国わかやま国体

The 70th National Sports Festival in Wakayama



躍動と歓喜、 そして絆



CONTENTS

紀の国わかやま国体の
成功をめざして

秋葉山公園県民
水泳場が新しくなります

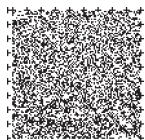
PLAYER'S VOICE
垣添 日奈選手

競技・選手を支える人
横尾 英治氏

競技紹介「カヌー」

お知らせ情報

音声コード



音声コードは読み上げ装置にて、
情報を音声で聞くことができます。

秋葉山公園県民水泳場の完成予想パース(平成25年3月完成予定)

紀の国わかやま国体の 成功をめざして

1971（昭和46）年に本県で開催された黒潮国体では、県営紀三井寺運動公園や秋葉山公園県民水泳場などのスポーツ施設が整備されました。

また、スポーツ教室の開催や黒潮国体を記念して、昭和47年から県民総参加スポーツ大会が始まるなど、様々なスポーツ振興施策が進められ、黒潮国体での男女総合優勝以降も、昭和60年代の前半頃までは概ね20位以内で推移するなど、国体の開催は、その目的にある「地方スポーツの振興」に大きく寄与するものでした。

2015（平成27）年の紀の国わかやま国体においても、国体を単なる一過性のイベントに終わらせることなく、継続的にスポーツの振興・活性化を図り、併せて「ひとづくり」「やまづくり」など地方文化の振興を実現することが重要です。

このため、県準備委員会では「4つの基本目標」を定め、その実現を目指し、県民一人ひとりがスポーツの価値、楽しさ、感動の共有をもたらす大会となるよう開催準備を進めていきます。

和歌山を
元気にする国体

国体を契機とした
スポーツの振興

活力に満ちた
ふるさとづくりに
寄与する国体

和歌山の魅力を
全国に
発信する国体



こぶち しんじ
小渕 伸二氏(62)
新宮市在住

杯を授与され、無事大役を完了。県民の皆さんとともに味わった喜び、感激は今も忘れない。

40年前の黒潮国体。陸上競技教員男子三段跳びで、15メートル59の大会新記録という花を添え優勝した小渕伸二さん。和歌山県選手団を代表して閉会式で天皇杯を授与される大役を告げられたのが閉会式の直前で、言いようのない緊張と不安を覚えた。壇上で常陸宮殿下から天皇



天皇杯を授与される小渕伸二さん(壇上左)

2015

The 70th National Sports Festival in Wakayama

会場地市町村及び
開催競技(正式・特別)

会場地市町村	競技名
和歌山市	総合開・閉会式
	陸上競技
	水泳(競泳・水球)
	テニス
	体操(競技・新体操)
	バスケットボール
	セーリング
	ウエイトリフティング
	ハンドボール
	自転車(トラック)
	相撲
	フェンシング
	柔道
	ライフル射撃(CP)
	高等学校野球(硬式)
	バスケットボール
海南市	銃剣道
橋本市	サッカー
有田市	バレーボール
御坊市	ソフトボール
田辺市	軟式野球
	バレーボール
	軟式野球
新宮市	サッカー
	ボクシング
	軟式野球
紀の川市	弓道
	サッカー
	自転車(ロード)
門真市(大阪府)	高等学校野球(軟式)
	サッカー
大津市(滋賀県)	ハンドボール
	ソフトボール

会場地市町村	競技名
岩出市	ハンドボール
紀美野町	バドミントン
かつらぎ町	ボウリング
九度山町	ホッケー
湯浅町	ゴルフ
日高町	なぎなた
印南町	軟式野球
みなべ町	ホッケー
日高川町	ゴルフ
白浜町	軟式野球
上富田町	山岳
那智勝浦町	カメラ(スプリント)
北山村	アーチェリー
串本町	ソフトテニス
	卓球
	空手道
	サッカー
	軟式野球
	ラグビーフットボール
	レスリング
	剣道
	カメラ
	(スラローム・ワイルド)
	サッカー
	ラグビーフットボール
	高等学校野球(軟式)

【県外開催の競技】

門真市(大阪府)	水泳(飛込・シンクロ)
大津市(滋賀県)	ボート

※馬術、ライフル射撃(CP除く)、クレール射撃については検討中

昭和41年に建設され、黒潮国体の水泳競技の会場としても使用された秋葉山公園県民水泳場(和歌山市)が、水泳競技の中心拠点となる施設として平成25年3月の完成を目指し、屋内プールへ全面建替えされることになりました。

秋葉山公園県民 水泳場が新しくなります。

(表紙の写真)

秋葉山公園県民水泳場の概要

地上2階、地下3階、延べ面積25,251.99㎡
駐車場:地下式229台
子供プール:屋外プール
50mプール:10コース、公認、屋内温水プール(50m×25m)
25mプール:8コース、屋内温水プール(25m×20.5m)



新たな県民水泳場のテーマ

子どもから高齢者、障害者を含めた
全ての人に安全で利用しやすい施設

公園施設にふさわしく、周辺景観・
環境と調和する施設

水泳競技の中核拠点となる施設

PLAYER'S VOICE

国際東洋医療鍼灸学院 垣添 巳奈選手

1989年、和歌山市生まれ。八幡台小―西脇中―和歌山西高。小学3年生から和歌山グランドボウリングに所属。国体は2005年の岡山大会から昨年の千葉大会までの6大会中5大会に出場し、個人・団体で好成績を挙げている。



女子5位、兵庫国体少年女子個人5位、第47回全日本選手権マスターズ戦準優勝など輝かしい成績を残している。スピードボールが持ち味だが、「スピードを出せばいいってもんじゃない。レーンの状態によって攻め方は変わる」と言うように環境に応じた戦い方ができることが長所。

経験を積み重ねるほど強くなっている。

「何か習い事をやってもすぐ辞めてしまう」という飽き性だが、ボウリングだけは違った。「もちろんボウリングが好き、ということもあるけど、家族みたいな人たちがずっと支えていてくれることが一番大きい」と言うように、所属する和歌山グランドボウリングクラブの先輩や仲間が心の支えだった。「恩返しは地元国体で優勝することです」ときっぱり話す。

幼少の頃、父に連れられボウリング場へ。「ピンを倒せたのがうれしくて、楽しくて夢中になった」。休日には朝昼晩とボウリング場を「ばし」するほど熱中し、次第に腕前も上達。クラブに所属し、小学4年生の時に初のマイボールを手に出場した関西ジュニア選手権の小学生の部（男女混合）で優勝。以来、中学2年生を除き高校3年生まで関西女王の座に。「趣味で始めたことがまさかここまでくるとは思っていなかった」と自身でも驚く。

高校2年生から2年間、全日本ナショナルメンバー入りし名実共に国内トップクラスの選手に成長。第30回全日本高校選手権



地元国体優勝を目指す垣添選手

現在は、鍼灸師の資格を得るため専門学校に通う。プロになる意思は「全然ない」と言い、「今は紀の国わかやま国体だけ」に照準を定める。「やっぱり地元なんではかの大会以上に意識する」と目を追うことに緊張感を高める。レーンのクセ、オイルの状態など、地の利は地元選手に有利に働くがその分「負けられない」とプレッシャーも相当。「欠点が結構あるんで100%といかないまでも少しずつ直していく」ことで重圧を解く。「国体で終わりじゃない。ボウリングはずっと続けていきたい」。目指すは息の長いプレイヤー。

競技・選手を支える人

故郷・福岡県筑紫野市は「剣道のまち」。小学2年生で剣道を始めたのは「必然的だった」。2年後には頭角を現し始め「以来、あまり試合で負けた記憶がない」と笑いながら振り返る。国士舘大4年生の時には主将に抜擢され部員400人を束ねた。その経験から「稽古をつけるのが好きだった」と言い、卒業時には実業団や警察などから多くの誘いがあったものの「迷わず」教員の道に進むため和歌山県教委に入庁。翌年に桐蔭高へ配属され、剣道部顧問に就いた。

進学校のため「短時間で効率よく、内容の濃い稽古を心がけた」と言い、早朝や昼の時間も使った。「型にはめず、個性を生かす剣道を教えてきたつもり」だ。その成果もあって男子団体戦で県勢初の近畿大会優勝を果たした。「まさか優勝するとは思わなかった」と振り返る一方、「みんな集中力があつた。集中して練習してきた結果だった」とも。

自身も息の長い現役選手として活躍。世界選手権を制したのをはじめ、全日本選手権常連選手で日本一にも輝いた。国体へは2年前の58歳まで成年男子団体戦の大将として出場し、「もう何回出たか分からない」。まさに剣道一筋の人生を歩む。

「勝ちに不思議あり、負けに不思議なし」。敗因は必ず自分にあると強く説く。「勝ちも負けも自分の責任」の剣道には強い精神力が必要。加えて礼儀作法や相手を尊重する態度、心を養う「人間形成のために最高のスポーツ」だと信じている。

地元国体開催に向け施設整備が進む県内。「財政が厳しい中で進めてくれていることには感謝している」と喜ぶ一方、「国体を一過性のものにしてはいけない。生涯スポーツも根付いてきているし、和歌山が元気になるにはスポーツの力が大きい」とも。県剣道連盟では国体強化担当。「総合優勝を狙います」ときっぱり言い切る。



今年の全国高校選抜大会に柔道、相撲、空手、剣道、男子のソフトボール、ホッケーの6クラブが出場。県優勝旗を前に笑顔の横尾校長



創立100周年記念碑「夢はてしなき高魂」がお気に入りの横尾校長

横尾 英治氏

県立箕島高校長 県剣道連盟理事長

昭和25年9月、福岡県生まれの60歳。剣道は小学2年生から始めた。国士舘大時代は1年生からレギュラーとして活躍、4年生では主将を務めた。2、4年生でインカレ団体優勝。同大卒業の同48年に和歌山県教育委員会保健体育課職員。同49年から県立桐蔭高保健体育科教諭。剣道部顧問。男子団体戦で県勢初の近畿優勝に導いたほか、女子個人・団体戦でインターハイ3度の出場。自身も現役として第3回世界選手権（同51年）で個人優勝。全日本選手権に10回出場し、優勝1回、3位2回。国体出場多数。和歌山山西高教頭、南紀高校長などを経て平成20年から箕島高校長。県剣道連盟理事、審判委員会委員、教士8段。



現在も時間があれば剣道部の指導に臨む横尾校長

シリーズ

競技紹介

カヌー競技

(カヌースプリント、カヌースラローム、カヌーワイルドウォーター)



静かなスピード感、激流を制するテクニック 全国トップレベルの県ジュニア勢



片ひざ立ちで水かきが片側のみのパドルで漕ぐカナディアン

ド（水かき）が片側だけのパドルを漕ぐカナディアンと、座った姿勢で両側にブレードがあるパドルを交互に漕いで進むカヤックの2種類がある。

古座川の川下りが知られるように自然を満喫しながらゆったり漕ぐレジャー感覚のイメージが強いカヌー。しかし、「競技ではスピードと技術を競うんです」と、カヌーワイルドウォーターの県内女子選手の第一人者である大平幸子・南紀高校教諭が話すよう、そのスピード感とアグレッシブさも魅力のひとつ。国体競技は、流れのない河川・湖・港等で行うカヌースプリント、急流の河川で行うカヌースラローム、カヌーワイルドウォーターの3種目。



座った姿勢で水かきが両側にあるパドルで漕ぐカヤック

それぞれシングル（一人乗り）とペア（二人乗り）があり、カヤックはフォア（4人乗り）もある。県カヌー協会理事長の入澤和彦・神島高校教諭は「カヌースプリントは水鳥が飛び立つ時に水面を走るようなスピード感が醍醐味」と話す。

カヌースラロームは変化に富んだ流れのある河川に2本のポールをぶら下げたゲートを複数設け、これを通してしながら上流から下流へ下るタイムレース。ゲートにはアップとダウンの2種類があり、アップゲートでは下流から上流に漕ぎ上がる。不通過やポールに触れればペナルティが課せられる難度の高いレース。「自由自在に艇を操る選手のテクニックに魅せられる」と入澤さん。カヌーワイルドウォーターは岩などの障害をかわしながら激流の河川を一気に漕ぎ下るタイムレース。大平さんは「複雑な流れを見

極め、一気に駆け抜ける判断力や技術が試される」と話すように自然が作り上げた予測不能の難コースをパドル一本でクリアしていく大迫力の競技。1500メートル以下のコースで所要タイムを競うレースと、300メートル〜600メートルのコースで2回の合計タイムを競うレース（スプリント）の2種目がある。大平さんは「恐怖心に打ち勝ちながら複雑な急流に挑み、制覇していくところに醍醐味を感じる」と力説する。

県勢では、カヌースプリントのジュニア選手の間インターハイや国体での優勝経験が豊富にあり、ジュニアナショナルメンバを輩出するなど全国トップレベル。シニア選手では昨年11月のアジア大会（中国・広州）で県出身の阪本直也選手（日体大）が男子カナディアンシングル200メートルで銅メダルに輝いたほか、カヌーワイルドウォーターでは大平さんが国体で2位を最高位に平成14年の高知大会から平成21年の新潟大会まで、毎回入賞を続けている。

現在は神島、田辺工、新翔の3高校にカヌー部があるが、中学校にはなく「さらなる競技力向上のために小中学校への普及・振興が課題」と大平さん。地元国体を契機に「誰もが楽しめる県民スポーツへ」と期待し、そのためにも「カヌー競技で力を合わせ、目指すは競技別の男女総合優勝と女子総合優勝」と意気込む。



激流の河川を下るカヌーワイルドウォーター

2015 紀の国わかやま国体

vol.6 2011年3月発行

第70回国民体育大会和歌山県準備委員会事務局
(和歌山県国体準備課内)

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1

TEL.073-441-2015 FAX.073-427-5377

URL <http://www.wakayama2015.jp/>

E-mail wakayama2015@onyx.ocn.ne.jp

ホームページは、[紀の国わかやま国体](http://www.wakayama2015.jp/)

検索

みなさまのご意見・ご要望をお待ちしております。



この印刷物は環境に配慮して大豆油インキを使用し、ユニバーサルデザインの考え方で作られています。

おしらせ情報

国体募金実施中!

紀の国わかやま国体と第15回全国障害者スポーツ大会において、ボランティア活動などの大会運営に活用させていただきま。皆様のご協力をお願いします。詳しくはホームページをご覧ください。

